

**久留米市高齢者福祉計画及び介護保険事業計画推進協議会 地域ケア会議専門部会
令和2年度 第2回会議 会議要旨**

日時	令和2年7月31日（金） 20:15～20:50
場所	久留米医師会館 教室1
出席者	委員：古村部会長、松本副部会長、岡委員、杉本委員、中原委員、今里委員 柴田委員、重永委員、後藤委員、吉永委員、古賀委員 事務局：・長寿支援課 野口課長、小山補佐、古賀補佐、合戸補佐、山田、上野、西村 ・介護保険課 藤木課長、田原主幹、庄村補佐、淵上主査
欠席者	真木委員、濱本委員
傍聴者	6名
議事次第	1 開会 2 新任委員の就任 3 報告事項 第1回協議会（書面会議）の報告について 4 協議事項 第8期高齢者福祉計画及び介護保険事業計画への提言（案）について 5 その他 今後のスケジュールについて 6 閉会
議 事	
1 開会	
2 新任委員の就任	（新任委員（中原委員、古賀委員）の紹介）
3 報告事項 ＜部会長＞	第1回協議会（書面会議）の報告について、事務局より説明をお願いします。 （事務局より資料に基づき説明）
4 協議事項 ＜部会長＞	特に無ければ、協議事項について、事務局より説明をお願いします。 （事務局より資料に基づき説明）
＜部会長＞	それではまず、資料1、2について、皆様方から何かご質問とかご意見はございませんか。 それでは、私から、状況の認識のところ、意識の変化について、認知症の当事者や家族の考え方が変化しているとあるが、どのように変化しているのか教えてください。
＜事務局＞	これは第1回の会議の意見を要約しているものですが、これまでの高齢者は、サービスを介護事業所から受けた際に、基本的には感謝の念を持たれていました。ところが、団塊の世代とか、今後の話を踏まえると、単純に感謝というところからあり方が変わってくるのではないかというような意見をいただきました。家族や高齢者の考え方が変わってきており、団塊世代とか契約社会の中で、地域づくりをどう考えるか課題である、という発言をまとめているものです。

<p><部会長></p>	<p>ありがとうございました。このような認識の変化から、老人クラブに入らなかつたり、地域の縁が切れていたりとか、世代間の関係性の希薄とか、そういうような考え方や現状があるということですね。他の皆様から何かご質問はございませんか。</p>
<p><副部会長></p>	<p>前に話が出たことですが、情報の共有、コミュニティの部会間の情報共有というのはうまくいっているのですか。</p>
<p><事務局></p>	<p>高齢者福祉に限らず、福祉の支援に関しては、ネットワークというのが強く言われています。チーム支援等を行っており、基本的に情報の共有というのは、個別の処遇支援の対応といった現場のレベルから、地域ケア会議のようなレベルに至るまで、基本的にはネットワークを作ってやっていくことになるので、情報の共有がなければ支援ができないという状況。</p>
<p><副部会長></p>	<p>現実的には、各部会でも情報を使って、特に前回の会議で話が出た問題症例とかを、どのように対応しているかということが話題になったと思いますが、それをいろんなところと、どのような対応、共有ができていますか。</p>
<p><事務局></p>	<p>複合的な課題を抱えている世帯というのは、例えば高齢者が認知症で、障害者の子供がいて、生活に困窮しているという事例の課題を解決する場合には、それぞれの支援機関である、生活困窮の自立支援センター、障害者の基幹相談支援センター、高齢者の地域包括支援センターが集まって話し合う。これらの機関が定期的集まって、症例や事例の検討会等をやっています。また、それぞれの機関で、事例や支援方法の共有を行っています。</p>
<p><部会長></p>	<p>他に資料1、2について、何かご質問はないでしょうか。 それでは、資料2についてはこれでということで、これらの課題を踏まえて、実現の取り組みとして、資料3の提言(案)を整理してもらっています。 ア～ウまで3点ありますが、まずは、アについて、何か意見はありませんか。 それでは、私から、例えば、先ほど地域包括支援センターの話が出ました。訪問がこれから滞るとか、会議等がどんなように開いていくとかかという状況であり、これまでと社会が変わっている中、市として、何か工夫や考えていることがあれば、教えてください。</p>
<p><事務局></p>	<p>現在、新型コロナウイルスの影響で、対面での対応は厳しい状況です。しかしながら、緊急事例、例えば虐待や、安否が不明なケース、家で倒れているといった事例もあります。緊急性が高いものは、リモートと言っている状況ではないので、感染予防をしたうえで直接対応を行っています。一方で、緊急の対応が必要でないものは、会議という形を避けて、書面であったり、リモートで実施するなどを考えています。</p>
<p><部会長></p>	<p>ありがとうございます。今後、どのように対応していくか、具体策を考えていかないといけない状況になっていると思ったところでした。他にアの件について、何かご意見ございませんか。 それでは、アで、今の状況を考えた時に、具体的な対応策をどう考えていくのかは、近々の課題だと思うので、その点も考えてもらうということでお願いいたします。 それではイに入ります。 イに関して、何か提案や意見がありましたら、よろしく願います。</p>
<p><委員></p>	<p>認知症の当事者の活動に居場所づくりの推進が求められているということを提言に挙げてもらっていますが、大まかなものでいいので、どんなものを考えているのか、わ</p>

	<p>かる範囲でいいので伺いたいのですが。</p> <p><事務局> 認知症当事者が活動される居場所づくりの推進という点について、若年性認知症の方の就労の場について、この専門部会の意見でも出され、東京で車の清掃を行っている例や、注文を忘れる料理店などの事例の紹介がありました。そういう場所で当事者が活動されるのは、市としても推進していかないといけないし、もう少し数を増やしていかないといけないと考えています。そういう居場所づくりを広げていかないといけない。それと合わせて就労の場とか、活動の場を模索していかないといけないという議論があり、それ踏まえて、案としているところです。</p> <p><委員> 実現出来たらとてもいいなと思いますが、コロナに限らず、認知症の方は比較的元気な方、動ける方が多い一方、少し目を離したら、事故が起きやすい状況というのが十分あると思います。そういう点も踏まえた居場所を考えてもらえればと思い、質問しました。よろしくお願いします。</p> <p><部会長> ありがとうございます。他にイにつきまして何か提案や意見がありましたら、お願いします。</p> <p><委員> 以前の会議で、似たようなメンバー構成で、似たような集まりが結構あって、同じようにできるのは一緒にやったほうがいいという話を聞いた記憶があります。こういうご時世で、なるべく集まらないとか、参加者を少なくした方がいいという声もあるし、一緒にできるものはやったほうが、会議もより充実します。人数的にもたくさん集まるよりはいいと思いますが、市としてどのように考えているのですか。</p> <p><事務局> 前々回の会議の中で、確かにそのようなご意見がありました。地域ケア会議の課題と支え合い推進会議の課題は非常に類似しているという意見も踏まえて、提言という形で整理しています。今後は、支え合い推進会議は社協と地域福祉課、地域ケア会議は包括と長寿支援課で進めていますが、連携を図りながら、なるべく類似している課題は調整していく方向で協議を進めていく必要があると考えています。</p> <p><部会長> 他に何か意見ある方はございませんか。</p> <p><委員> 今の意見に関連して、私の地区でも、支え合い推進会議が始まって、アンケートをとろうということまで来ていますが、やはり同じようなアンケートを行政もする、国もするとなると、民生委員がいくつも対応しないとイケなくて、本当に負担になるという声も出ています。もちろん様々な仕組みがあるから仕方がないとは思いますが、情報共有をもう少しスムーズにしてもらえればと思います。</p> <p><部会長> 他にイにつきまして何かありませんでしょうか。無ければ私から。実際に介護事業所を活用した地域の居場所づくりとコミュニティづくりの推進という提案がありますが、この言葉はよく目にしますが、具体的に市がどのように今から推進していくかという方法論があるなら、教えてください。</p> <p><事務局> まずご質問に答える前に、今回の資料 3 は、地域ケア会議の課題の中から、次の高齢者福祉計画に盛り込み、行政施策に活かすために、地域ケア会議専門部会の提言として、これまでの会議の意見を網羅する形でまとめているものです。 その中の一つとして、介護事業所を活用した地域の居場所づくりということを入れていく方がよいとの意見を受けて、提言書に挙げているところです。 現在は新型コロナウイルスの影響でやれていませんが、市では介護予防事業を公共施設等を活用してやっています。一方で近くに介護事業所があり広いスペースを有してい</p>
--	--

	<p>るが、あまり使用されていない場合や、地域住民が介護事業所の存在を知らないという人もいます。介護予防事業に遠くから来られている人もいるので、なるべく地域の介護事業所で事業をやってもらおうことで、地域に介護事業所があることを知ってもらいたいと考えています。コミュニティづくりについても、理想としては自治会の集まりにも介護事業所が活用できないのかということを考えています。</p> <p><部会長></p> <p>ありがとうございました。市の方向性を聞いて、それについて、何かこうやった方がとか、何か意見はありますか。無ければ、今のような方向性で進んで、今後具体的な案に移してもらおうということでしょうか。それではウに行きます。</p> <p>前回の会議で、実際に活動している色々な世代間の交流とかボランティアに、活動の場所を拡大したらどうかという意見を言わせてもらいましたが、何かこれに関して意見等ございましたらお願いします。</p> <p><委員></p> <p>社協では、今回の7月の大雨に際して、7月10日から災害ボランティアセンターを開設しています。今年はコロナもあり、事前登録制としています。事前に登録を行い、その中から、活動日はいつで、いつ来ますかというメールを送るという方法でやりましたが、7月に事前登録を募集したところ、約700名の方が登録をしてもらっている状況です。内訳を見ると、市内がだいたい2割くらいで、あとは市外の方です。一応県内の方に限っていますが、災害に対してのボランティア意識はとても高いのかなと思います。その中で70歳代以上の方もいらっしゃいました。今回はコロナのこともあったので、高齢者が訪問に行って、そこでコロナに感染するかもしれないし、感染させてしまうかもしれないというリスクもあったので、断りはしていないが、参加はどうかということが話にはなっていた。今回コロナがあったので、ボランティア活動に関しても、それなりのリスクはあるということは検討していく必要性はあると感じています。</p> <p><部会長></p> <p>ありがとうございます。今の社会状況の中から考えると、やはり感染対策も考えながら、計画を考えていかないといけないというご意見だったと思います。他に何か意見はありますか。</p> <p>今の意見だと、市外の方が多くって、久留米市のボランティアの啓発という点で、700名もの登録はあったが、市民のボランティアの意識は低いのかもしれないという話になるのですか。</p> <p><委員></p> <p>おそらく、実際に市内に住んでいる人は現状がわかっているが、テレビを観ていると、城島や北野が広い範囲で長期間浸水していて、そういうところで、北九州や行橋などからも多くの方が登録して、市外の方が増えたのではと考えています。なので、2割程度ではありますが、100名以上の市民が登録しており、災害に対する意識というのはすごく高いと感じています。</p> <p><委員></p> <p>今の意見と重なるところもありますが、私は現在、校区でボランティアを立ち上げて、高齢者に対して、ゴミ出しとか、枝切り、雑草、そういった軽微で簡単な仕事をしようということで、来月から校区内で、ボランティアの募集の広告を出すようにしています。いろいろな人が来るとは思いますが、それを一覧表にして若い人から高齢者まで、色々やりたいという方に、例えば、土曜日曜だけとか、平日でもいいよとか、そういう風に分けてやろうかなと思っています。今立ち上げて、コロナが終息するのではないかということで、11月くらいから始める予定にしていたのですが、このままいくとそれも無理かなというところで、色々苦慮しているところです。</p> <p>ボランティアを集めることは、高齢者に対して、もちろん役に立ちますが、考えてみると、ボランティアで参加するという意識を出してもらった人は、校区とある程度の関係を経ることが出来ます。するとその人がもし、困っている人のところへ行けば、そこでまた人間関係ができる。その関係で、今担い手がものすごく少ない中、私たちも70</p>
--	---

歳を超しているので、そういったボランティアの中で、人との交流、コミュニケーションをとって次の世代を担う人を育てています。

それから、高齢者で家から出られない人との交流を深めるということで、色々な波及効果があるのではないかと期待はしています。なぜここでボランティアを始めようかと思ったのかというのは、私が住んでいるところは、300世帯くらいの自治会ですが、そこで自治会長を4年やっている時に、ボランティアを立ち上げました。今、約30名のボランティアがいて、夜間パトロールや、こどもの行き交うところの雑草取り、高齢者の色々な困りごとの助け、そういうのを完全に無料のボランティアとしてやっています。それをやって、校区にも役立てないかなと思いついて、包括支援センターからも支援があり、いろいろと計画。うまくいけばいいかなと思っています。

<部会長>

ありがとうございます。先ほどの意見にもありましたが、団塊の世代の意識が変わってきて、老人会やいろんなものに入らないと、65歳以上になった時に行く場がないとか、65歳、70歳、75歳になって、場所がない、仲間がないということが予測されます。ボランティア活動をすることによって、仲間づくり、様々な世代の人たちと交流することで、介護予防に向けた取り組みになるし、コミュニケーションがはずみ、それがボランティアになって、地域につながるというような、とてもいい取り組みだと思います。

今の意見のような取り組みを、久留米市の他の地域にもこれを浸透させようとしたときに、取り組みを皆さんに広げることができる方法があったら教えてもらえたらと思います。

<委員>

それについて、私の自治会では成功していますが、それでも30名いる中で、常に出て来る方が半数、あと半数は、仕事や家のいろいろな用事で、出てこれない方もいる。しかし、あまりそれを縛ると、みなさん初めから応募しよしくなるので、ものすごく緩くしています。

たまに顔を出される方とは、会った時に出てきやすいような話し合いをしながら、引っ張り出すというようなことでやっています。実は私営業を長年やっていて、ものを売る前に自分を売れという基本があり、それを徹底的に教えてもらった。まず緩くして参加してもらうことで、いつのまにか参加した人が、「あれ、何でここに居るのだから」というような形で行ける雰囲気づくり、それを狙っています。

市内のまちづくり振興会の全46校区の会長たち、全員とは話せないが、たまに気があった人と話すと、2年から4年くらいしか会長をやらない。事務局長は長いこともあるが、出入りが激しいから、なかなかひとつの計画を達成させようとする、1、2年で成り立つものじゃないので、そういうところで難しいかなと常に思っています。でもやはり、何か基礎くらいは作っていききたいなと。私もそんなに長くはやらないので、そういう気持ちで頑張っています。

<部会長>

ありがとうございます。あまりにも久留米市が広く、このウを拡大していこうといっても、その方法論ってなかなか難しいのかなと思いついて、取り組みを聞かせてもらいました。

他に何かウに関しまして、意見はありませんか。コロナもあるが、活気ある久留米を作るためには、今からの65歳以上の方たちが活躍をし、互いに話し合うようになると、地域づくり等、全てつながるので、大切なことかなと思った。他に無ければ、原案のA、イ、ウの3点を、次の8期に向けて具体的な方法論でこれから計画してもらうという方向性でよろしいでしょうか。

(委員全員より承認を得る)

4 その他

<p><部会長></p>	<p>それでは、以上で本日の議題は、全て終了しましたので、次の「その他」に移りますが、事務局から何かありますか。</p>
<p><事務局></p>	<p>今後のスケジュールですが、この地域ケア会議専門部会から、計画推進協議会議に提言を行う形になります。本日の意見を踏まえ、今後の取り扱いについては、部会長、副部会長と決定させていただきたいと思います。よろしくをお願いします。</p>
<p><部会長></p>	<p>事務局からの説明が終わりました。委員の皆様から何かご意見やご質問などございませんか。他になければ、司会を事務局に返します。</p>
<p>5 閉会 <事務局></p>	<p>本日は、円滑な議事進行にご協力いただき、ありがとうございました。これをもちまして、「地域ケア会議専門部会 令和2年度第2回会議」を閉会いたします。</p>